

この研修コースから得られたもう一つの最重要事項は、バリュー・エンジニアリング技法です。組織がムダを特定して排除し、コストを削減し、効率を向上させるのに役立ちます。ビジネス支援者として、

ナビゲーター

私はこの技法を活用して、支援先の各工程とその処理方法の改善を支援するつもりです。この技法は、製品またはサービスを分析してその価値を判断し、品質を損なうことなくコスト削減する方法を明らかにすることができます。支援先企業がこの技法を活用

日本への期待
世界各地から

共 50

日本の知見をアフリカで実践

できるようにすれば、業務を最適化し、収益性を高めることができます。

このコースでは、企業の社会的責任(CSR)の重要性と、持続可能なようにビジネスを実践するためのCSRの役割についても取り上げられました。CSRは世界中の企業にとつて重要な問題となっており、組織運営が社会的および環境に与える影響を理解することは不可欠です。ビジネス支援者として、支援先の企業が持続可能な調達、倫理

ガーナの企業支援機関から(下)

的な労働形態をとり、環境対応ができませんでした。ビジネス応などでCSRを頭に置くようにすることが私の責任であると思います。支援先がCSRをビジネスの実践にあたり組み込むようにすることで、私たちは一緒に持続可能で責任あるビジネス環境を構築することができるのです。

加えて、とくにアフリカでは中小企業が技術向上を必要とする点で、日本では中小企業の技術向上をどのように支援しているかについて知る

「ライセンスとその後」は、ビジネス支援者や経営者、管理者にとつて、経営管理、生産性向上、CSRに対する日本のアプローチについて学ぶ機会となりました。この研修コースを通じて、私はビジネス支援者としての仕事に適用できるはずである貴重な洞察と方法論を得ました。

私が学んだことを、支援先が実践すれば、支援先企業は業務を最適化し、収益性を高め、より持続可能でかつ責任あるビジネス環境を構築できるようになります。中小企業

例で、企業がどのように業務を改善し、新たな成長のための機会を創出するかを示唆します。結論として、2022年度 JICA 知識共創プログラム

得意分野とする日本から提供

(以下、リーム追記)

ドゥック氏がこのコースをおして取り組んだ課題の一つは、地域の病院の集客についてである。講師陣は、いきなり対策をとるのではなく、きちんと現状を把握し、根本的な問題を明確にし、その上で対策案を構築する必要性を伝授した。

【サムエル・ドゥック、リーム中産連】

(月曜日に掲載)